

パンタロンの構成に関する研究

小倉 春・小堀 明代

はじめに

パンタロン (pantalon) は最近多様化された衣服の中でも、若い人達に愛用されているものの一つである。1967年～1968年にサンローラン (S. laurent) はシティパンツ (City pants) とかスラッキイ (Slackey) 等と呼んで通常着としての新鮮なパンタロンを発表している。パンタロンは現在、我国でも若い人の衣生活から、きりはなして考えることは出来ない。

パンタロン又スラックスは作図・仮縫・縫製の諸点で色々と研究されているが、今回は美しいシルエットに仕立てる、きめてになるのではないかと思われる“伸し”の研究を中心に実習を進めた。製作したものは(A)シーチングによる試作。(B)ツイードを用いて裾口の広いパンタロンを製作する。(C)同じ素材を用いて裾口のせまいパンタロンを製作する以上三点の実習報告をしよう。

実習報告

1. 作図 (1図)

寸法…………腰廻り (85cm) 胴廻り (60cm) 股上 (25cm) 脇丈 (84cm) 腰廻りの位置に於ける体の厚み (23cm) 以上の採寸を用いて作図する。

2. 裁断 (2図)

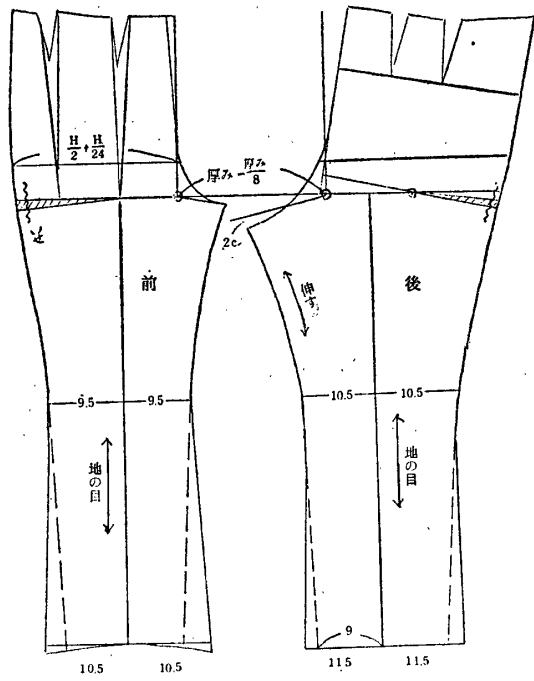
図のように布の上に型紙を配列する。この時布地の目は必ず正しく通さなければならない。実物の布地を裁断する場合は補正されたトワールを型紙かわりに使用する。

3. トワールによる仮縫い (3, 4, 5, 6, 7, 8図)

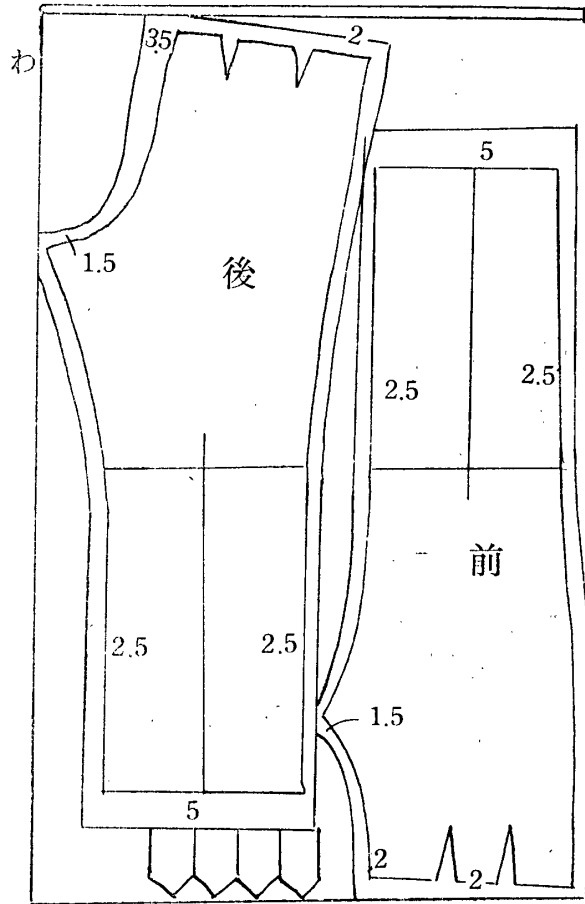
- 3図6図は型紙通り裁断されたものをそのまま仮縫した場合。
- 4図7図は脇線、裾線など体型に合わせて補正した。後股下膝線のあたりのしわは、補正だけでは取り去る事は出来ない。
- 補正された布を股下でバイヤス地に (2.5～4.5cm)、膝線の位置の両側で、縦地に 1cm クリーズ線の位置で、18図のように伸す。(シーチングの縦地は伸びないのでハサミを入れ、1cmの開きを作る) その結果5図及び8図のように美しいシルエットを得ることが出来た。その時の布の状態を見てみると9図は伸してない状態、10図はアイロンで伸した後の状態、11図は左右の後身頃が伸しのためにクリーズ線が曲線になっている。

4. 実習に使用した布地について

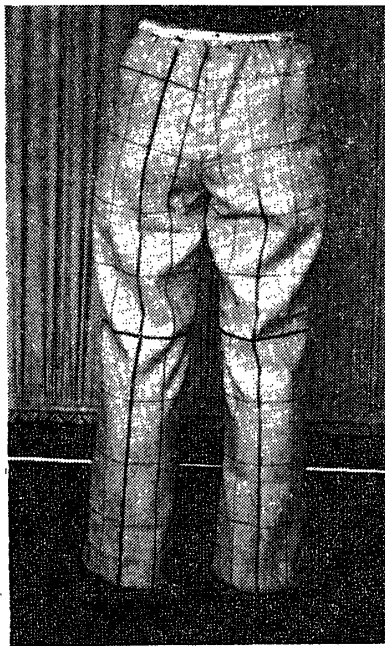
- ① 名称 ツイード



第 1 図



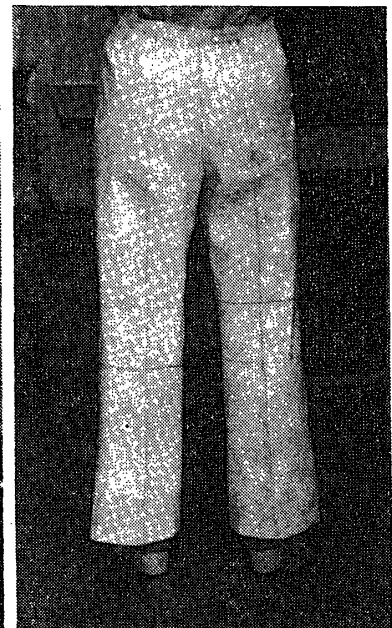
第 2 図



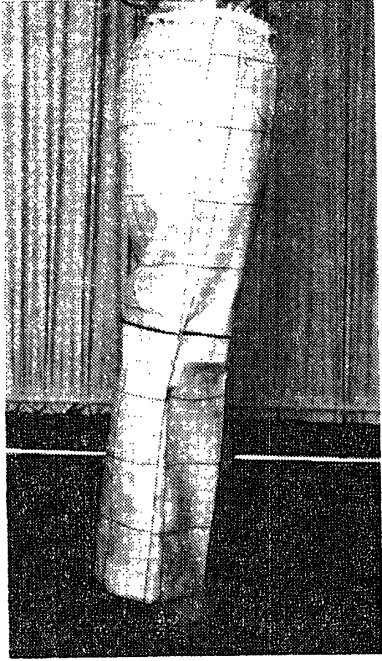
第 3 図



第 4 図



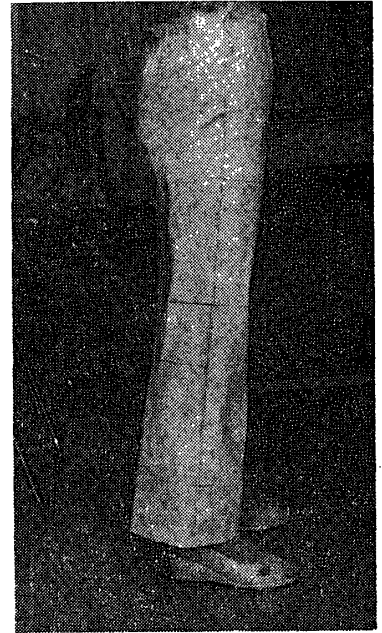
第 5 図



第 6 图



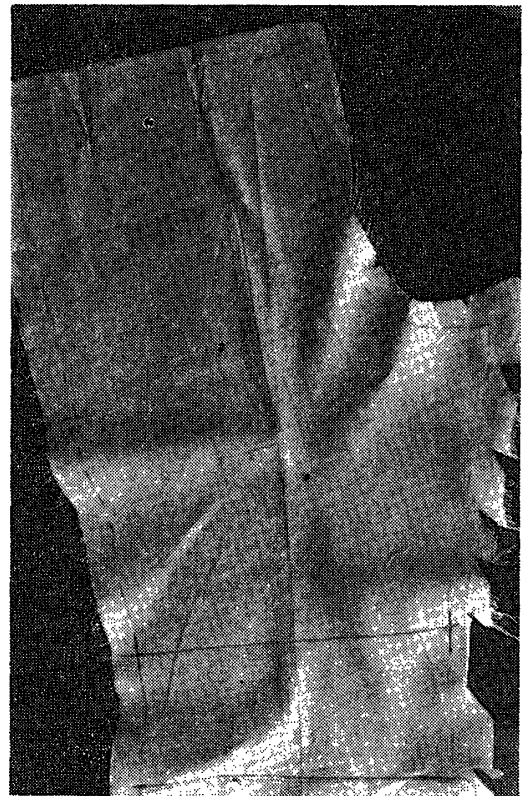
第 7 图



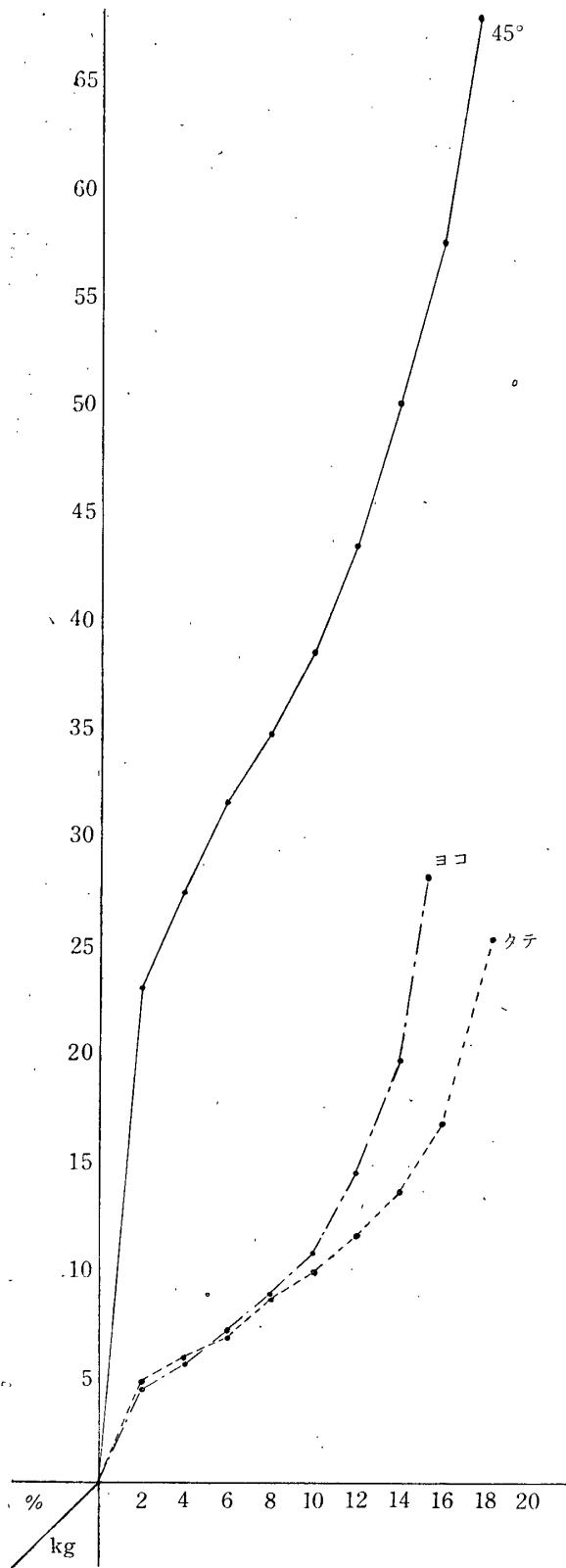
第 8 图



第 9 图



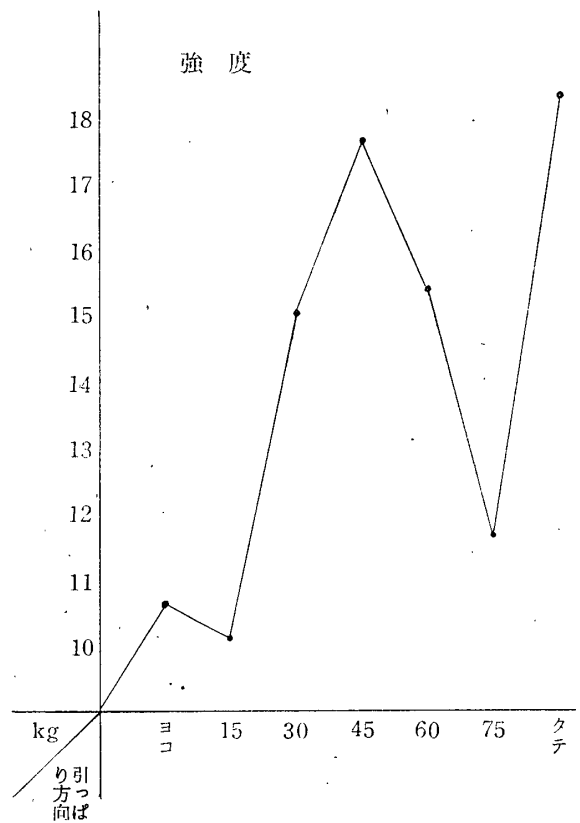
第 10 图



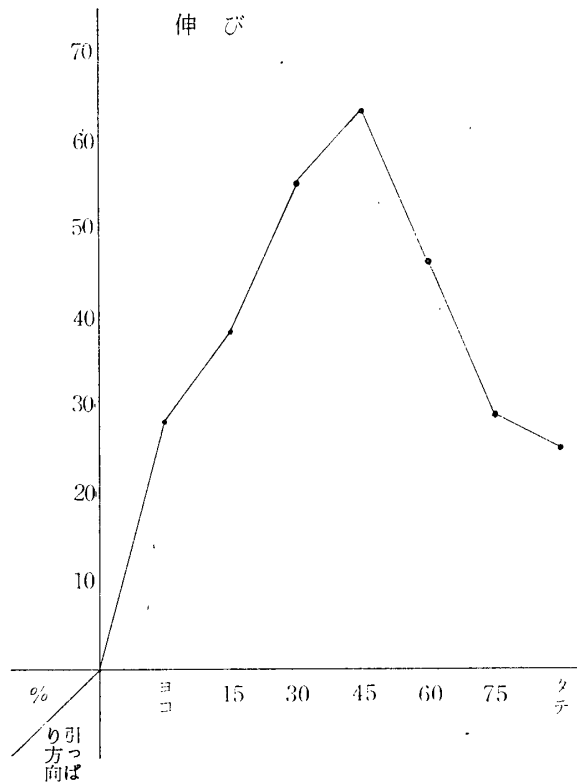
第 12 図



第 11 図

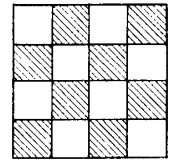


第 13 図



第 14 図

- ② 組織 平織
- ③ 素材 縦糸……羊毛
緯糸……羊毛
- ④ 番手 縦糸……6番手
緯糸……6番手
- ⑤ より数 縦糸……24.4 t/m
緯糸……35.6 t/m
- ⑥ 厚さ 0.9365 mm
- ⑦ 重量 23.65 mg/cm²
- ⑧ 密度 縦糸……19.8/inch
緯糸……16.9/inch
- ⑨ 強伸度 (12, 13, 14図)



5. 伸しについて

写真(15図)のような要領で、くせとりを行なう。方法は(18図)に示された矢印の方向即ちニーラインの位置で縦地に1cm伸す事と、

股下から股上にかけてバイヤスに充分伸す。その結果の伸び具合を部分々に分析してみた。(16図の布はアイロンにより17図のように伸びる)

ヒップラインとクリース線 (crease) を基準に 5 cm 四方の区画を作り、右上り 45° と左下り 45° に対する伸びを計り数字で示した。(19, 20図) は裾廻り 44cm の裾巾の広いパンタロン (21, 22図) は裾廻り 36cm の裾巾のせまいパンタロン、結局両者の力の合成が、クリース線となり、写真に見られるように曲線に変化する。(23図)は伸しをしていない状態、(24図)は伸した後クリース線が曲線に変化した状態。(25図)は前後脇を縫い合わせた状態。

伸びを細かくみると、斜線で示す部分が、一番伸びている個所である。それにより裾巾の広いものと狭いものを比べると、斜線の個所が違っている。これはシルエットの違う両者を、それぞれ体に美しく合わせるためである。

伸しにより生じる強度への影響を見ると、最大に伸びたと思われる14.3%でも 1.2kg の力しかかかっていないそれは布が切れる 17.6kg の約15分の1にすぎない。これをみると伸しにより布が損じられる事は、あまり問題ではない。

6. 実物の布で製作した場合の写真による説明

裾巾のせまいパンタロン

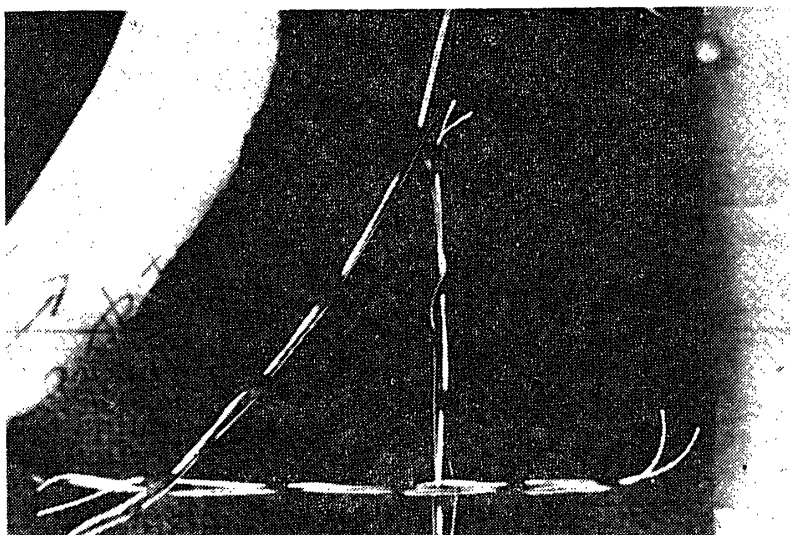
(26図) 試作したトワールを型にして裁断しそのまま仮縫した。

(27図) 股下の部分に強くアイロンで、くせとりをした。

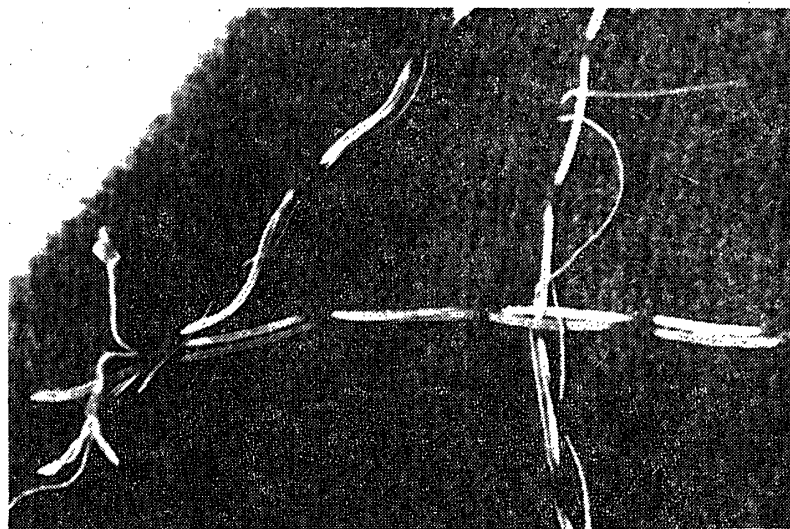
(28図) 仕立上がり



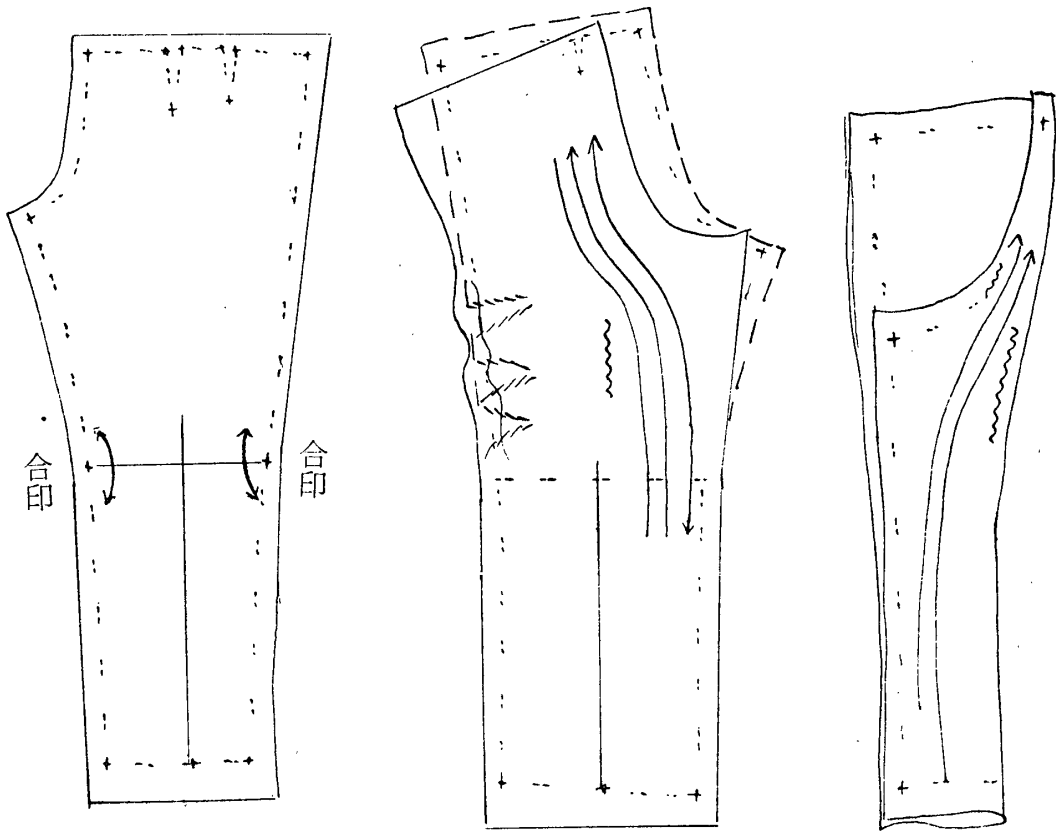
第 15 图



第 16 图



第 17 图



第 18 図

裾巾の広いパンツロン

(32図) トワールを型にして、そのまま仮縫いする。体型に合わないため無理なしわが目立つ

(29図) その側面で体型に合わないためゆがんでみえる。

(30, 33図) 霧を吹きアイロンで伸しをかけた場合、不用のしわが取れて体型に合った美しい型になる。

(31, 34図) 仕立上り

7. 縫 製

1 表身頃

(1) 脇線の地縫

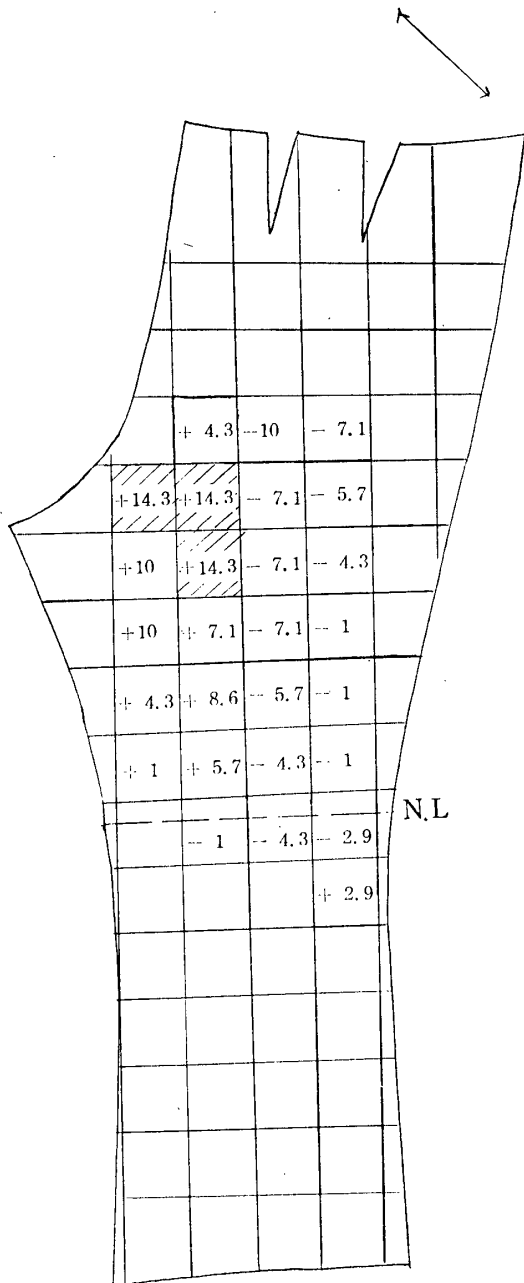
縫代 1.5cm に切りそろえ、アイロンで割る。裁ち切りの所は白もでかがっておく。

(2) 股下の地縫

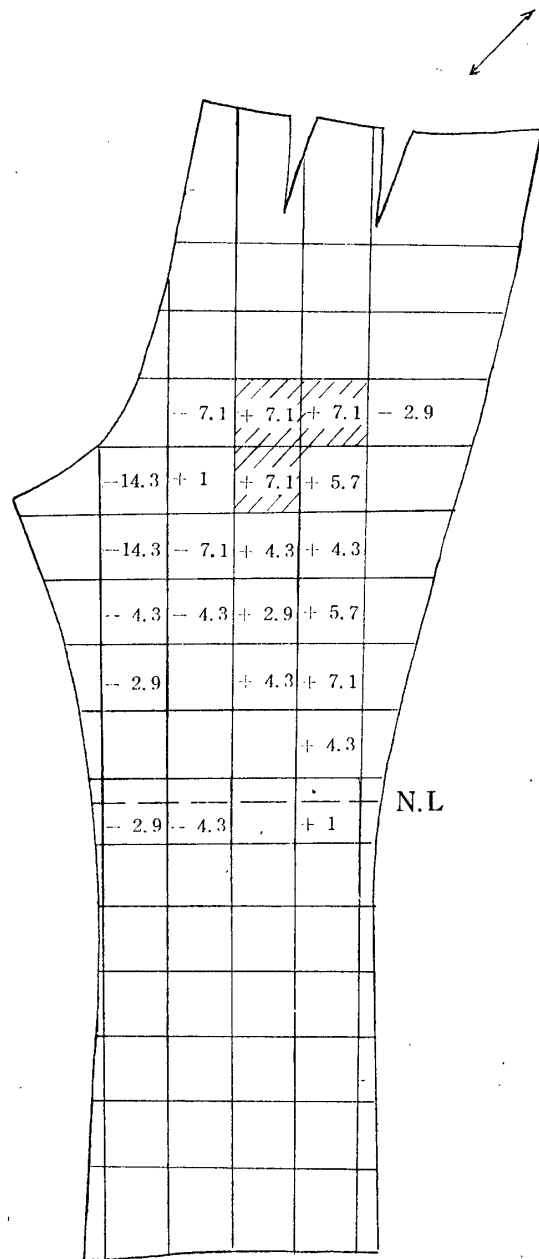
(3) 股上の地縫 (35図 ㊦)

後股上から前股上までを中表にして二度縫いする。ファスナー明き止りまで同じ縫目を二度縫い、縫代は割っておく。

(4) 前股上にコンシールファスナーをつける。



第 19 図



第 20 図

2 裏身頃

脇線，股上，股下共標通り白もで縫い，0.3cm 外をミシンで縫い片倒しする。

3 股上の表身頃と裏身頃を中とじする。

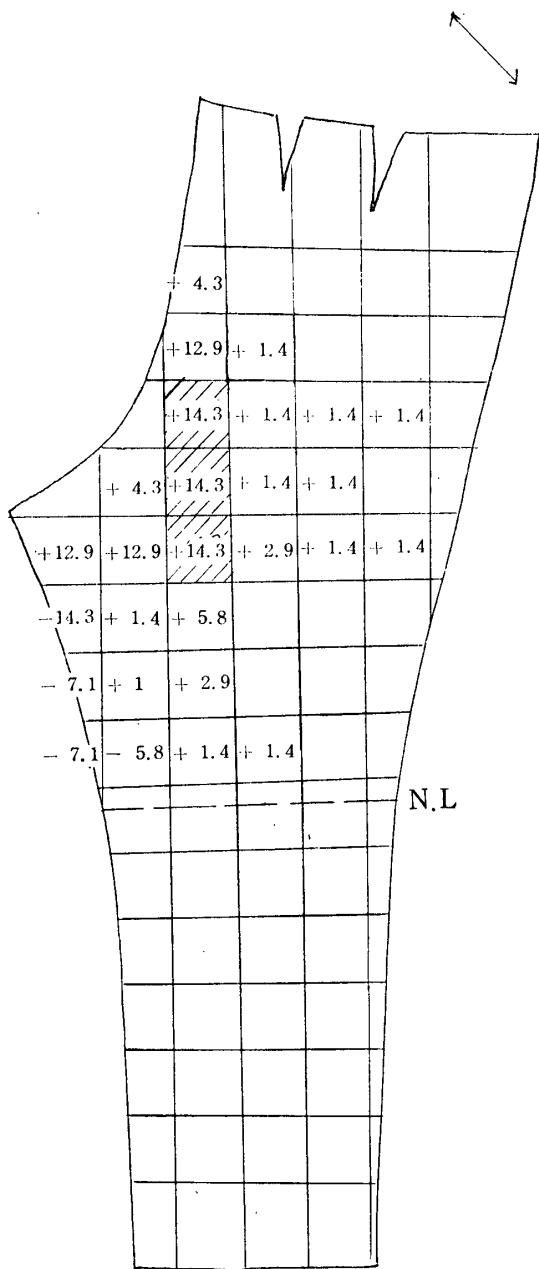
4 ウエストの始末

(1) ウエストダーツをたたみ，6cm 巾のヨークを作る。(35図 ㊸)

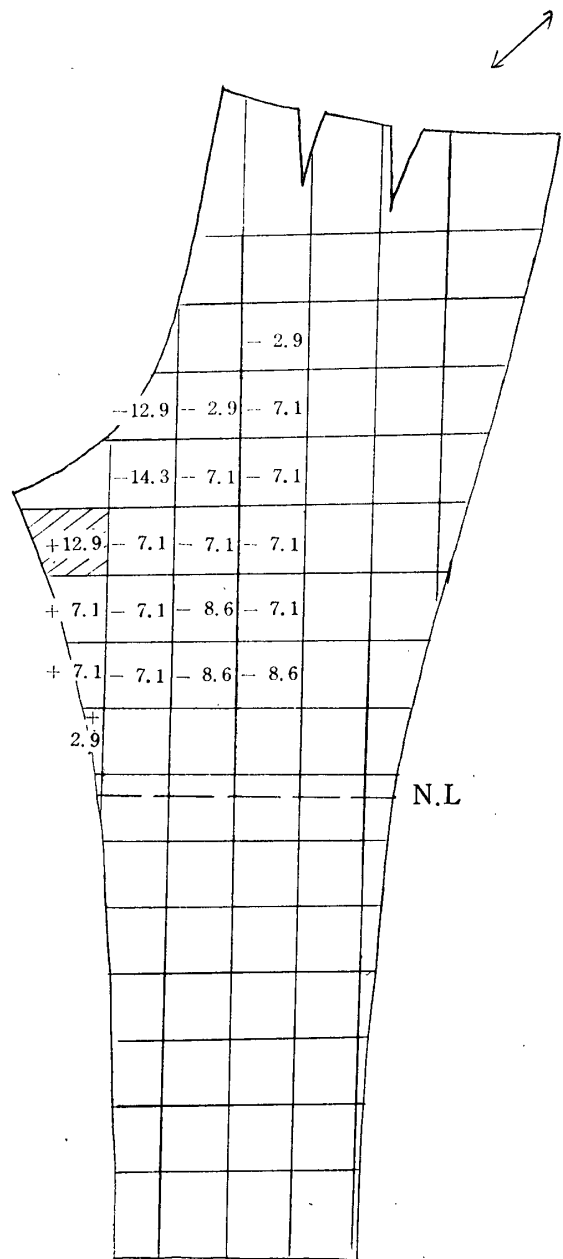
(2) 天竺綿 3 枚合せて芯を作る。

(3) 芯をバイヤスの裏地でくるむ。(35図 ㊹)

15cm 巾のバイヤス布を作り，巾を半分に折り，わの所にヨークのカーブに合わせて伸しを入れる。



第 21 図

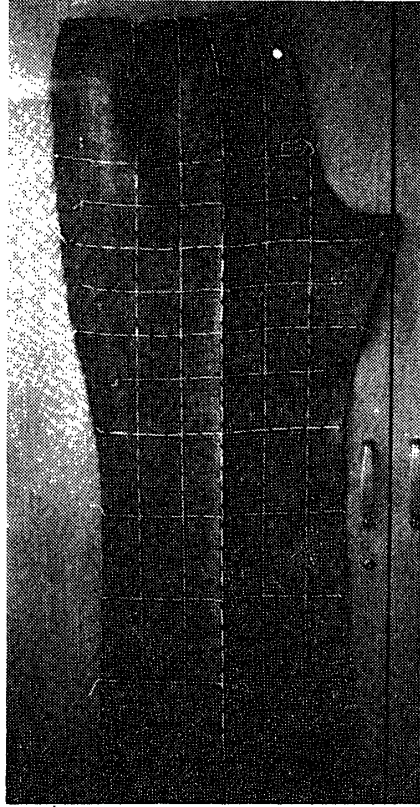


第 22 図

- (4) 伸した裏地で芯を包み、ミシステッチを5本位かける。(35図㊸)
- (5) ベルト通しをつける。(35図㊹)
- (6) 裏ベルトと表身頃でベルト通しを、はさみづけする。
- (7) ウエストの囲りは裏ベルトを控えて星入れをしておく。(35図㊺)
- (8) カギホックをつける。

5 裾の仕末 (35図㊻)

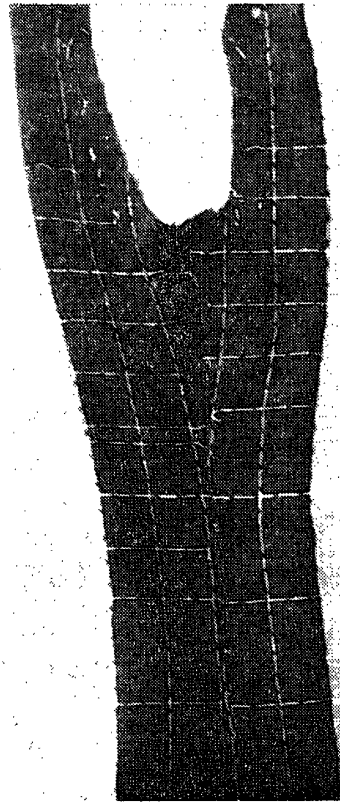
表身頃はパイピングする。



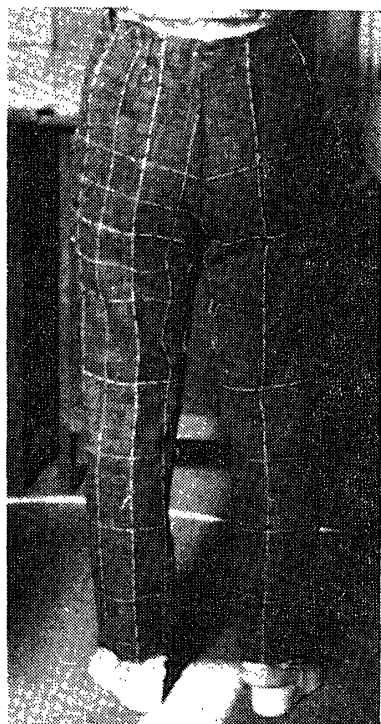
第 23 图



第 24 图



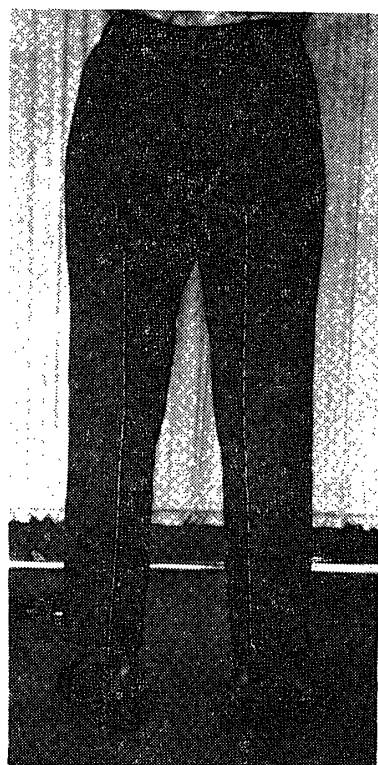
第 25 图



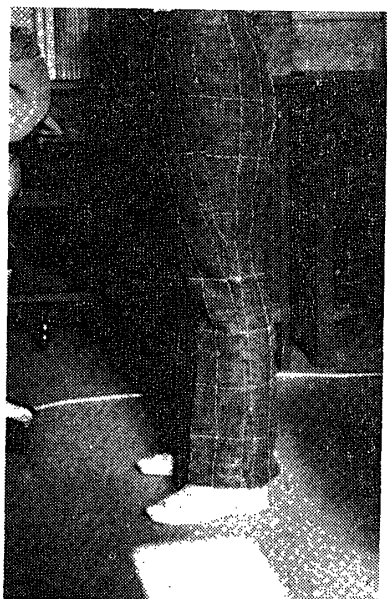
第 26 图



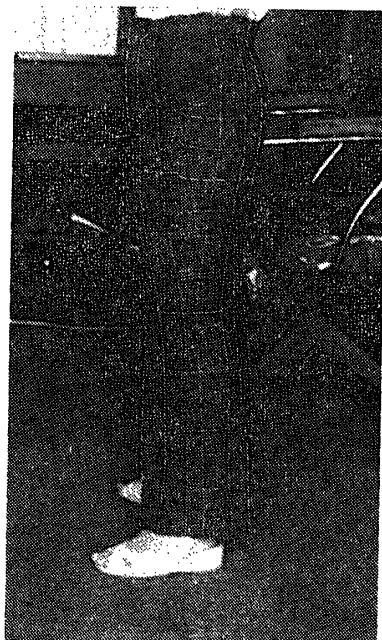
第 27 图



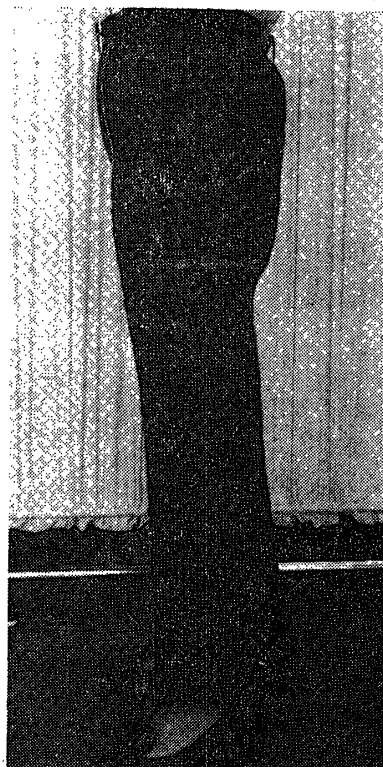
第 28 图



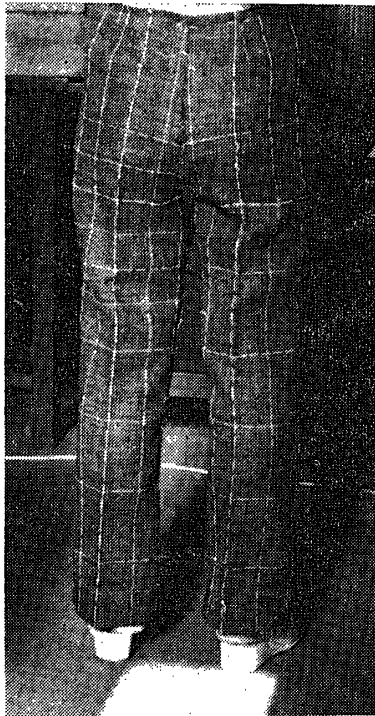
第 29 图



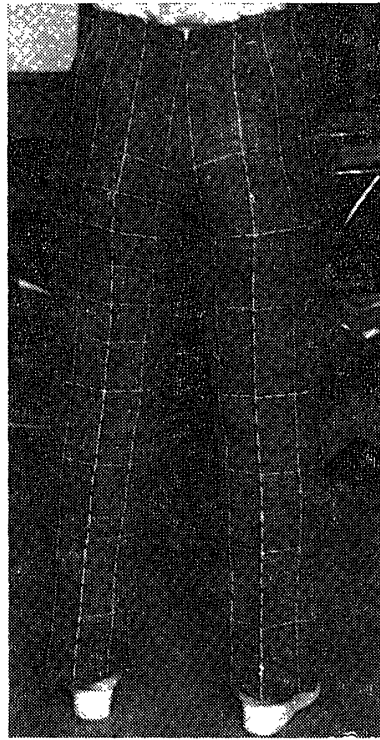
第 30 图



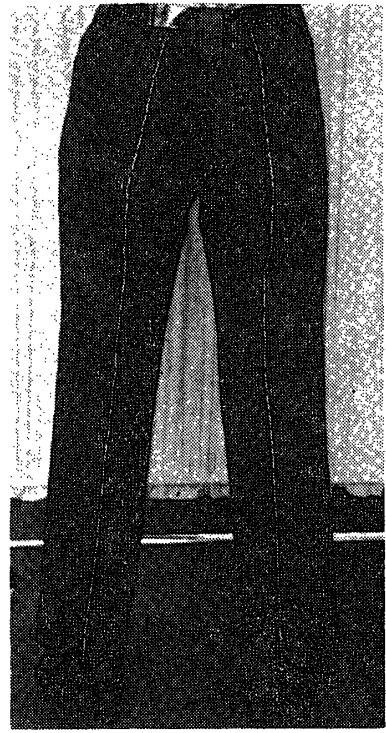
第 31 图



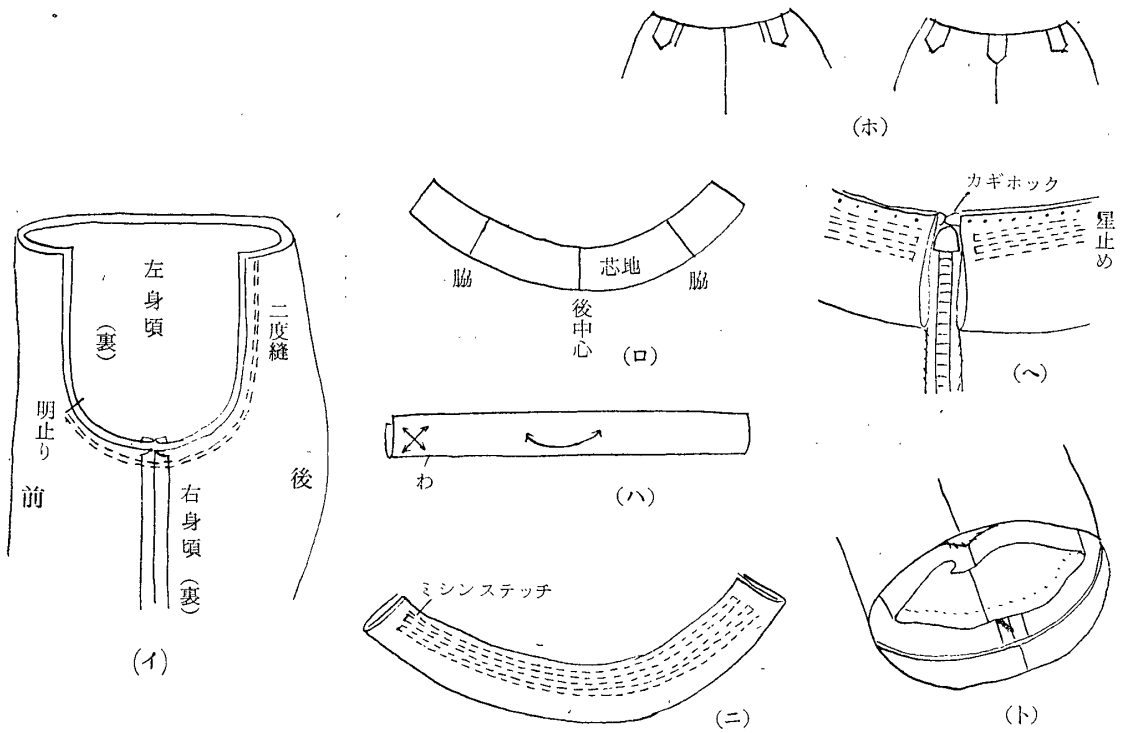
第 32 図



第 33 図



第 34 図



第 35 図

裏身頃は三つ折りにしてまつる。

表、裏身頃裾を脇でループ止めにする。

6 仕上げ

クリース線に強いアイロンをする

結 び

平面作図による布をそのまま組立てた場合当然、後の股下の部分にしわが出来る。股下の位置をアイロンによってくせとりした時、体型にあわないために出来た“しわ”はなくなる。

膝のあたりから裾口の方に向かって曲線になっているパンタロンはその部分の縦地を、曲線が直線になるまでアイロンでくせ取りをしなければならない。これはテーラードされたジャケットの脇線及び二枚袖の袖下の曲線の場合と同様である。

パンタロンに於ける伸しの分量とか位置は、素材・体型・デザインによって変化する又霧を吹きアイロンで何回も伸した場合伸び切りの状態となりクリーニングしても元には戻らないといわれているが、これらの問題については後の機会に追求を進めてみたいと思う。